

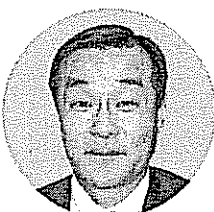
【ワシントン＝渡辺浩生】米国へ大量流入するヒスパニック系移民を支える元邦銀マンがいる。移民は先月、3億人を突破した米国の人口増加の原動力だが、テロなどの規制で2人に1人が口座をもてない。2006年のノーベル平和賞に輝いたバンクラデシウの経済学者、ムハマド・ユヌス氏が考案した貧困層向け少額無担保融資「マイクロファイナンス」も移民を対象に手がけ、米大手銀行や世界銀行からも注目を集めている。

「コムエスタ(お元氣ですか)」

ワシントン市内の「アラランテ・フィナンシャル」支店。夕方になると仕事を終えた移民らが続々と来店、しわだらけのドル紙幣を差し出して送金の手続きをする。

「月に2回、両親と息子に仕送りしている。便利で助かっているわ」と、エルサルバドル出身の女性が笑顔で話した。スペイン語で「アラランテ(前進)」という意味

移民支える 元邦銀マン



枋迫篤昌さん

の金融機関は、東京三菱銀行(現・三菱東京UFJ銀行)出身の枋迫篤昌さん(53)が代表取締役の「マイクロファイナンス・インターナショナル」が運営している。3年前に設立。現在、ワシントンを中心に9店舗を展開し、中南米10カ

国3281拠点の金融機関との間に送金ネットワークを構築した。送金額は1日40万ドルに上る。巨額な送金フローが本国の金融機関を通じて少額融資に向かうよう独自の決済システムを導入した。

米国の人口は先月、3億人を突破したが、その要因がヒスパニック系移民の激増。全人口比では黒人(13%)を超えて15%に達した。世銀によると米国から中南米に送金されるお金は年間450億ドル。送金先の国によっては、実にGDPの4分の1を占める。

故郷に残る家族を支えるために必死で働く移民は米経済に欠かせぬ存在

送金・無担保融資・生命保険：米で運営



だが、彼らの2人に1人していないからだ。枋迫さんが考案した移民向けの少額無担保融資の貸金業者に頼らずお金で工面できる。残高は150万ドルに上った。故郷に家を建てる夢を出稼ぎ中に実現させたい人には住宅ローン、病気や事故で失業・死亡した場合に備えて医療・生命保険も開発した。

若き銀行員時代、 멕시코、ペルー、エクアドルに駐在。まじめに働いても貧困から抜け出せない人々に「金融でチャンスを与えたい」と思ってきた。将来はアジアやアフリカの移民にも門戸を広げる考えだ。

中南米の出稼ぎ移民が本国への仕送りに訪れるアラランテ・フィナンシャル
米ワシントン市内